

《「れいわ一揆」再公開に向けて》

「れいわ一揆」は、今年の4月17日に公開されるはずだった。いよいよ公開だ、とスタッフ共々、張り切って大車輪で準備作業をしていた。その矢先だった。劇場からコロナ禍のため、休業に入る、との知らせ。もしかしたら…と予測はしていた。が実際に上映が延期になったことがわかったときには、一気に全身の力が抜けた。我が映画生活50年で、初めてことだった。それからの時間が長かった。できることはやっておこう、と互いに言いつつも力が出てこない。3ヶ月経った頃、少しずつ劇場が再開に向けて動き出した。「れいわ一揆」は、いつプログラムするか、と劇場側と交渉を何度も何度も続けた。劇場も、上映するはずだった作品が溜まっていて、それらも含めてのプログラムを組まなければならないので大変だ。

さて、再公開が9月11日と決まった。が率直に言って、我が映画関連でいうと、山本太郎代表の都知事選出馬、大西恒樹の「命の選別」発言、野原善正の離党問題、「れいわ一揆」は決してれいわ新選組のPR映画ではないが、それでも党の激震が、もろに作品を揺さぶった。「れいわ一揆」は何という不幸な作品だ、とこの激震を呪った。が、待てよ、と思い直した。この激震の荒波をくぐって上映されるわけだから、より深く作品の意義を問われるだろうが、それは作品にとって意味あることだ、と。

ドキュメンタリーの意義は、問題提起にある、と信じている私にとっては、この作品から、どんな問題意識を汲み取ってくれるだろうか？ と楽しみにしている。

映画監督 原一男